

(2) 医療の質の観点から共同意思決定(SDM)をとらえる

小松康宏(板橋中央総合病院副院長/群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター顧問)

(3) 診断における対話～患者と医療者の協働プロセス～

荒神裕之(山梨大学大学院総合研究部医学域医療安全学講座教授)

(4) 患者経験価値調査と患者の旅

安藤 潔((一社)日本パシエント・エクスペリエンス研究会理事)

※教育セミナー2「医療安全」への参加は事前参加登録制です。第27回学術総会ホームページからお申し込みください。

※教育セミナー2「医療安全」を受講された参加者には履修証明を発行いたします。

◆シンポジウム

メインシンポジウム

人口減少社会の医療・介護に求められる変革

座長：野村一俊(医療法人朝日野会朝日野総合病院 名誉院長)

藤森研司(東北大学公共健康医学講座医療管理学分野教授)

(1) 医療介護政策

眞鍋 馨(厚生労働省厚生科学課長)

(2) これからの地域医療のデザイン

伊藤弘人(東北医科薬科大学医学部医療管理学教室教授)

(3) 地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットの設立と事業

島貴隆夫(山形県酒田市病院機構理事長)

(4) 人口減少社会における地域医療構想の進展と期待

伊藤 由希子(津田塾大学総合政策学科教授)

(5) 東松島市における「いきいき百歳体操」

(東松島市保険福祉部福祉課包括ケア推進係)

1. クリティカルパスをもっと活用しようー原点に戻って考えるー

座長：伊藤淳二(栃木県医師会塩原温泉病院副院長)

坂本すが(東京医療保健大学副学長)

(1) クリティカルパスとは、課題と未来への発展

武藤正樹(社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事)

(2) クリティカルパスの構造と作成・運用

野村一俊(医療法人朝日野会朝日野総合病院 名誉院長)

(3) クリティカルパスと記録

村岡修子(NTT東日本関東病院副看護部長)

(4) クリティカルパスと医療の質

勝尾信一(つくし野病院名誉院長)

(5) クリティカルパスと組織運営

中村元信(国立病院機構九州がんセンター副院長)

2. 医療安全と身体拘束ー拘束しないで患者の安全は守られるかー

座長：武藤正樹(社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事)

坂本すが(東京医療保健大学副学長)

(1) 精神科病院の拘束実態

西 典子(医療法人社団厚仁会秦野厚生病院看護部長)

(2) 拘束0を成し遂げた病院

小坂晶巳(社会医療法人財団慈泉会相澤病院看護部長)

(3) 患者サイドからみた拘束

稲葉一人(いなば法律事務所代表弁護士)

(4) 身体拘束が及ぼす生体反応に関する考察

田中聡一(高崎健康福祉大学保健医療学部教授)

(5) 診療報酬の動向から

武藤正樹(社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事)

3. 医療介護福祉連携は誰のための連携か～主人公は、患者さん？家族？病院？医療福祉連携士が考える地域医療介護福祉連携とは～

座長：中村起也(広南病院脳神経内科医師/医療福祉連携士4期生)

小野久恵(有限会社あおい代表取締役/医療福祉連携士1期生)

基調講演 医療福祉連携に関する最近の行政の動き

大島慶太(厚生労働省保険局医療課課長補佐)

(1) 医療介護福祉連携は患者さんのためだけではない！？

中村起也(広南病院脳神経内科医師/医療福祉連携士4期生)

(2) 合意形成のためにまもるべきこととは

浅野 留美子(大崎市民病院患者サポートセンター入退院管理係 主任看護師 退院調整看護師/医療福祉連携士7期生)

(3) 精神疾患を患うダブルケアラーに関しての現状について

新田雅義(訪問看護ステーションまそら代表兼管理者/医療福祉連携士9期生)

(4) 医療及び介護は国民の視点に立ったサービスを提供出来ているか～医療福祉連携士の役割を考察する～

下村 裕見子(北里大学大学院/医療福祉連携士1期生)

(5) 日本医療マネジメント学会(医療福祉連携講習会)について

大久保 一郎(横浜市衛生研究所所長/医療福祉連携講習会実行委員)